

鴻ノ巣古窯跡

調査の経過 鴻ノ巣古窯跡は、名古屋市天白区天白町に所在する。調査区の本来の地形は、南側に傾斜する緩斜面となる。

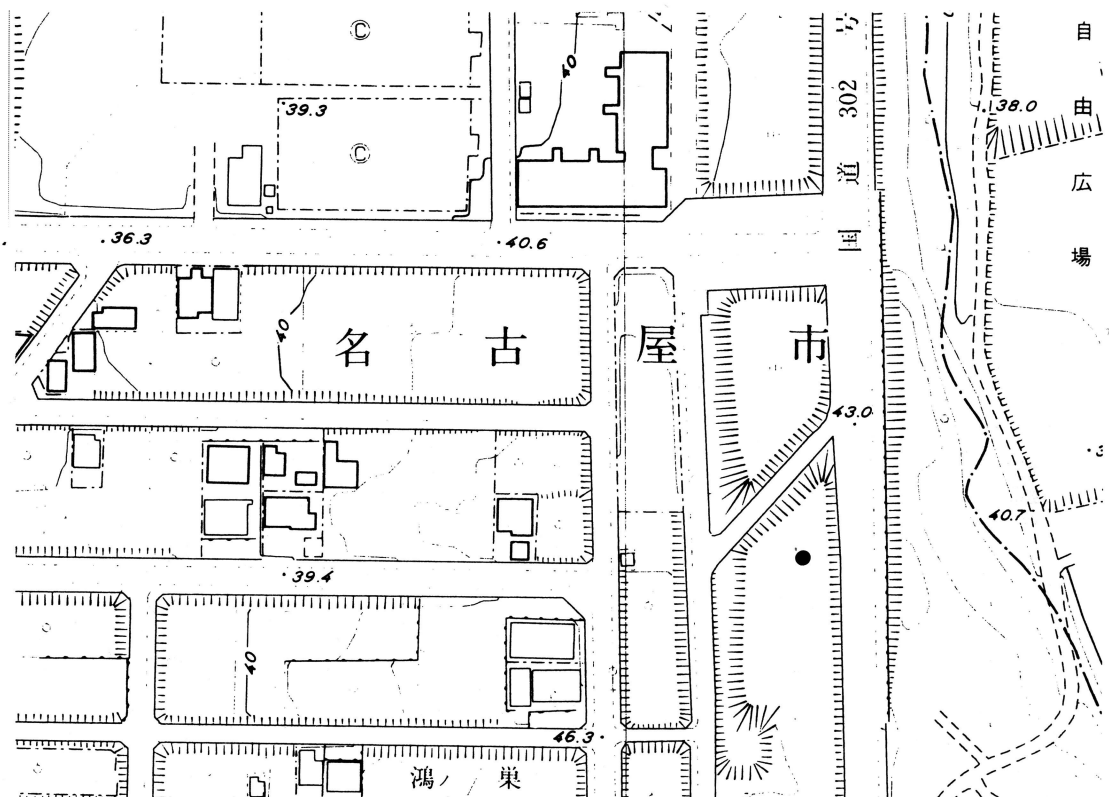
今回の調査は、国道302号線建設に伴う事前事業として実施し、調査面積は200㎡である。

調査の概要 調査の結果、調査区の北東部分で灰層を検出した。検出できた灰層は、厚さ0.1～0.3m程度、色調はにぶい黄色を呈する。焼土などの混入はなく、炭化物も乏しい。出土遺物は多量とはいえない。以上の状況から、検出部分はその末端部に該当するものと考えられる。

今回の出土遺物には、灰層から出土した灰釉陶器、灰白軟陶、須恵器の他、窯道具がある。図示した資料は16点で、時期は黒笹90号窯式を中心とする。窯道具には、ツク、焼台等がある。後者には、いわゆる馬爪焼台のほか、直径10cm大の自然石や、大型の製品片を転用したものなどがある。

ところで本窯は1977年、1978年の二次にわたって、名古屋考古学会の手で発掘調査が実施され、同団体から報告書も刊行されている。今回得られた資料は、これらを補足するもので、陰刻花文を施す資料などの存在は、当時期の猿投窯の生産構造を考える上で重要な資料となると考えられている。

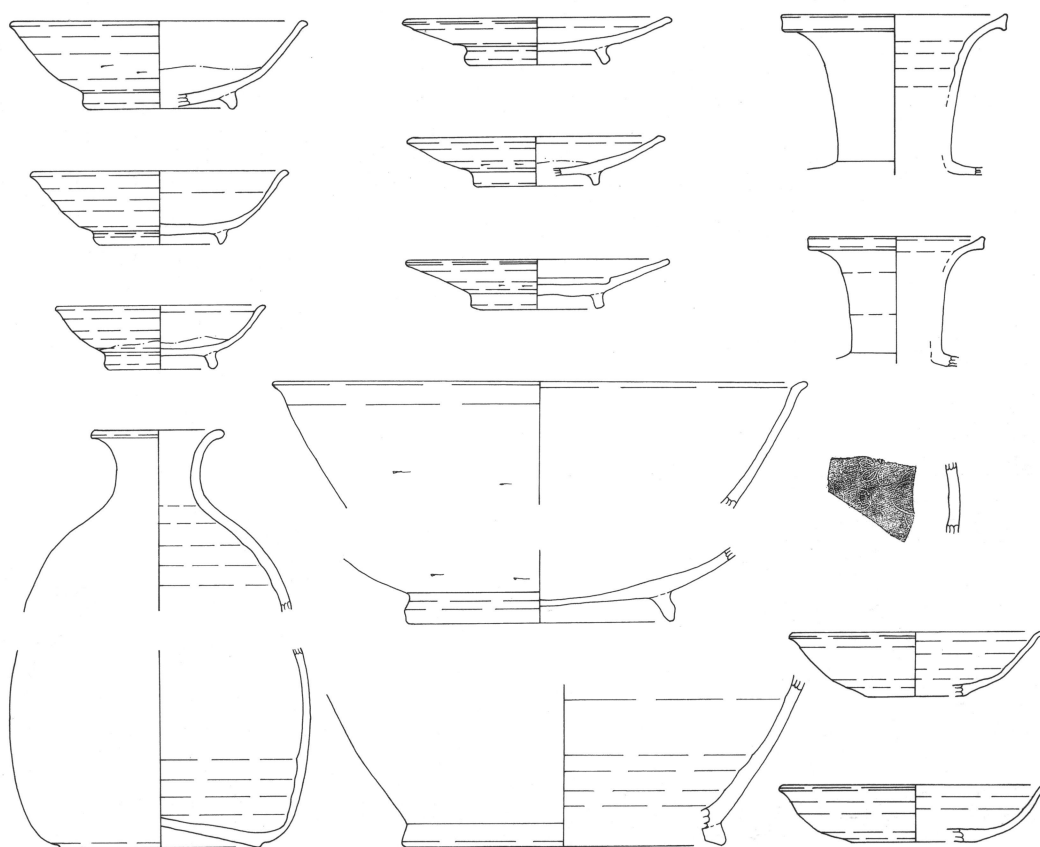
(池本正明)



第1図 調査地点位置図 (1:2500)



第2図 航空写真



第3図 出土遺物 (1:4)